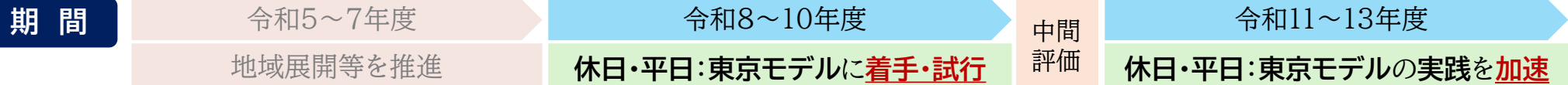


東京都における中学校の部活動改革 <令和7年度有識者会議での議論> 【資料7】

ポイント 令和8年度から令和13年度までの改革実行期間において、「子供たちの豊かで幅広い活動機会の確保・充実」と「教員の部活動指導や運営に関する負担軽減」の実現を目指す。



概要 休日・平日ともに部活動の地域展開を目指しつつ、「東京モデル」を導入
※ 国は、令和13年度までに休日の全ての部活動の地域展開の実現を目指すことを示している。

部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン

都としての部活動に関する考え方を明確にするとともに、国のガイドラインに基づき、部活動改革の方向性を示す。

I 学校部活動の在り方

部活動の教育的意義や適切な運営・指導に向けた留意点、体罰等・事故防止・健康面の対策 など

II 部活動改革の基本的な考え方

改革の理念、目的・方針の明確化

III 地域クラブ活動の在り方及び認定制度

地域クラブ活動に関する認定制度の在り方

IV 地域展開の円滑な推進に当たっての対応

段階的な体制整備(直ちに地域展開に向けた体制が困難な場合の配慮等)

V 大会・コンクールの在り方

生徒の参加機会確保、教員の大会等へ従事する際の考え方、大会等の在り方

VI 関連する制度の在り方

地域クラブ活動への兼業・兼職の在り方に関する考え方

【成果指標の考え方】

- (1) 生徒:スポーツ・文化芸術活動の満足度が向上したか、スポーツ・文化芸術活動に取り組む選択肢が増えたか
- (2) 教員:部活動の従事時間が減少したか、部活動指導の負担が軽減されているか

令和8年8月末までに、成果指標を公表

東京都における中学校の部活動改革に関する推進計画

都内公立中学校等における部活動の地域展開等を推進する。

> 「東京モデル」の推進

A 部活動の地域展開

- ◆ 地域の団体が運営団体・実施主体
 - (ア) 都立中学校等の地域展開促進事業
 - (イ) 地域展開・地域クラブ活動推進事業(経費一部補助)
 - (ウ) 地域クラブ活動の設立・運営等支援業務及び調査・研究
 - (エ) 休日における多様な体験活動プログラム(YAT)

B 部活動の地域連携:拠点化

- ◆ 複数の学校で連携
 - (ア) 公立中学校拠点化モデル(モデル地区の指定)

C 部活動の地域連携:外部人材の活用

- ◆ 地域の方々の参画
 - (ア) 部活動指導員の配置(経費一部補助)
 - (イ) 指導者の質の向上(研修資料の作成、提供)
 - (ウ) 外部指導者の配置(経費一部補助、質の向上)
 - (エ) 指導者派遣事業(TEPROや地域スポーツクラブ等)

これまでの有識者会議における成果指標に関する意見について

【生徒】

- スポーツ、文化芸術活動における**生徒の満足度**は大事である。
- **満足度は部活動と地域クラブ活動を分けず**に、スポーツ・文化芸術活動を一くくりにして**測っていく**必要がある。
- 「全ての生徒が希望に応じて多種多様な活動に参加できる」という点について、**選択肢の幅が広がることは重要**なことである。
- **教育的意義の継承・発展**に関わる**質的な要素**についても、生徒の満足度と併せて見ていく必要がある。

【教員】

- **顧問業務**は、練習内容の作成、練習試合の調整など**多岐にわたっており**、日数や時間の定量的な数値だけでなく、**質的な内容**も成果として位置付ける必要がある。
- **教員が一人で顧問を担うケース**も多いため、部活動をエリア内で共有するなど、**負担を分散**しながら進めていく視点も重要である。
- 教員の負担が軽減されても、外部の指導者の負担が増えると持続可能ではなくなるため、**指導者の満足度**も必要である。
- **教員の負担を軽減しつつ、生徒の満足度が維持**できれば、それも成果と考える。

「推進計画における成果指標の内容について」 -東京モデルの取組を着実に前進させていくために-

【論点Ⅰ】

【設計の妥当性】

- ① 単一の設問ではなく、同じ方向性を捉える複数の設問を設定した上で、主となる設問を KPI（代表値）として数値化するという設計が適切か。

【判断の示し方】

- ② KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理する示し方が適切か。

【論点Ⅱ】

【対象の設定】

- ① アンケートは区市町村の協力を前提に、成果指標を広く把握するため、対象をどのように設定して実施することが適切か。

【分析の方法】

- ② 調査全体の集計結果を公表としつつ、「東京モデル」の取組の実施校・非実施校別に分析することが適切か。

【成果指標の考え方(推進計画から)】

- (1) スポーツ・文化芸術活動の**満足度**が向上したか、スポーツ・文化芸術活動に取り組む**選択肢**が増えたか【満足度・選択肢】
- (2) 部活動の**従事時間が減少**したか、部活動指導や運営の**負担が軽減**されているか【従事時間・負担軽減】

I 論点

① 設計の妥当性

単一の設問ではなく、**同じ方向性を捉える複数の設問を設定したうえで、主となる設問をKPI（代表値）として数値化する**という設計が適切か。

② 判断の示し方

KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、**補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理**する示し方が適切か。

① 設計の妥当性

単一の設問ではなく、**同じ方向性を捉える複数の設問を設定したうえで、主となる設問をKPI（代表値）として数値化する**という設計が適切か。

<生徒に関する成果指標の捉え方>

観点	アンケート項目
◎活動に関する評価	スポーツ・文化芸術活動への <u>満足度</u> に関する設問
補完的把握	<u>楽しさ、継続意欲</u> に関する設問
◎活動の選択肢の変化<量>	スポーツ・文化芸術活動への <u>選択肢が増えたと感じる</u> かの設問
選択の理由<質>	学校内外問わずスポーツ・文化芸術活動を選んだ理由等の設問

<教員に関する成果指標の捉え方>

観点	アンケート項目
◎従事時間	<u>平日・休日の従事時間</u> に関する設問 ※部活動指導・運営を区別する
取組状況	「東京モデル」地域展開・拠点化・外部人材の導入状況 等
◎心理的負担	<u>負担感の変化</u> に関する設問
負担の内容	<u>負担要因</u> (休日対応、兼業・兼職等)に関する設問
◎活動に関する評価	スポーツ・文化芸術活動の <u>指導や運営への満足度</u> に関する設問
補完設問	<u>やりがい</u> や <u>意欲</u> に関する設問

② 判断の示し方

KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、**補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理する**示し方が適切か。

観点①:活動への**満足度**(成果到達指標)

区分	設問内容	KPI上の位置付け	参考
主設問	現在参加しているスポーツ・文化芸術活動について、活動内容や取り組みやすさなど、どの程度満足していますか。	代表値(KPI)	スポーツ・文化芸術活動への満足・やや満足の回答 91.1%(R7アンケート結果)
補完設問	・現在の活動について、楽しいと感じていますか。 ・今後も、今の活動を続けたいと思いますか。 ・教育的意義についても満足度とあわせて把握	妥当性確認	部活動は有意義と思う・やや思うの回答 90.6%(R5アンケート結果)

※ 部活動改革の成果が生徒に一定の水準で受け止められているかを把握する成果到達指標。主設問を代表値とし、楽しさや継続意欲といった補完設問との整合から、成果の現れ方を読み取る。なお、補完設問は同じ方向性の確認を目的としているため、同水準を求めないこととする。

観点②:活動の**選択肢**が広がったか(進捗確認指標)

区分	設問内容	KPI上の位置付け	参考
主設問	あなた自身にとって、取り組めるスポーツ・文化芸術活動の選択肢は、増えたと感じますか。	代表値(KPI)	自分のやりたい活動が学校や地域にあると回答 67.6%(R7アンケート結果)
補完設問	現在の活動を選んだ理由として、あてはまるものを選んでください。	行動面補完	部活動も地域クラブ活動も①楽しさ、②興味・関心、③交流・友情の順に高い(R7アンケート結果)

※ 選択肢拡大の成果到達を判定するものではなく、地域展開等の取組が機能し始めているかを確認する進捗確認指標。主設問の実感に加え、選択理由の補完設問を踏まえ、数値のみで断定は行わないこととする。

② 判断の示し方

KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、**補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理する**示し方が適切か。

観点③:部活動への**従事時間**(業務量把握指標指標)

区分	設問内容	KPI上の位置付け	参考
主設問	改革実行期間前と比べて、部活動の従事時間は、どのように変化していますか。 ※平日と休日、指導と運営を区別	代表値(KPI)	部活動に5時間以上従事と回答57.3%(R7アンケート結果)
補完設問	・「東京モデル」地域展開・拠点化・外部人材の導入状況 ・部活動時間の減少に影響していると感じるもの	妥当性確認	従事時間KPI(主設問)の実感(主観的)と、成果・課題の可視化

※ 部活動の指導・運営の従事時間の減少と、「東京モデル」の取組状況や変化に影響している要因をあわせて見ること、**「東京モデル」の成果・課題を読み取る。**

観点④:指導・運営に対する**負担感**(成果到達指標)

区分	設問内容	KPI上の位置付け	参考
主設問	現在の体制になる前と比べて、部活動の指導や運営に対する負担について、どのように感じていますか。 ※指導と運営を区別して選択	代表値(KPI)	部活動の指導や運営が負担と回答85.9%(R6アンケート結果)
補完設問	・現在、部活動に関して負担と感じている点があれば、あてはまるものを選んでください。 ・負担軽減による学校教育の質の向上(教科指導の充実等)	内容補完	負担感KPI(主設問)の内訳の把握、課題の可視化

※ 部活動改革の成果が教員の負担感の軽減として実感されているかを把握する成果到達指標。主設問を代表値とし、補完設問で負担の内訳を確認することで、成果の水準と残る課題を読み取る。

② 判断の示し方

KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、**補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理する**示し方が適切か。

【成果指標の考え方(推進計画から)】

(教員)部活動の**従事時間が減少**したか、部活動指導や運営の**負担が軽減**されているか
【従事時間・負担軽減】



(教員)部活動や地域クラブ活動の指導や運営への**満足度が向上**したか【満足度】

観点⑤:教員等の部活動や地域クラブ活動の指導や運営への**満足度**(成果到達指標)

区分	設問内容	KPI上の位置付け	参考
主設問	現在、携わっている部活動や地域クラブ活動について、指導や運営など、どの程度満足していますか。	代表値(KPI)	専門の部活動に平日のみ、休日のみ、平日・休日に携わりたい57.3%(R5アンケート結果)
補完設問	・現在の活動について、やりがいを感じていますか。 ・今後も、指導や運営に携わりたいと思いますか。	妥当性確認	従事時間KPI(主設問)と変化の実感(主観的)の整合性を確認

※ 部活動改革の成果が指導者に一定の水準で受け止められているかを把握する成果到達指標。主設問を代表値とし、やりがいや継続意欲といった補完設問との整合から、成果の現れ方を読み取る。なお、補完設問は同じ方向性の確認を目的としているため、同水準を求めないこととする。

「Ⅰ 論点」の成果指標の達成状況を把握する方法

- (1) 9月以降にアンケート調査を実施
- (2) 区市町村に成果指標を測るアンケートの協力を依頼
- (3) 区市町村が、東京都の成果指標を踏まえた際に、アンケート結果を活用できるスキームの設計

Ⅱ 論点

① 対象の設定

アンケートは区市町村の協力を前提に、成果指標を広く把握するため、**対象をどのように設定して実施することが適切か。**

② 分析の方法

調査全体の集計結果を公表としつつ、**「東京モデル」の取組の実施校・非実施校別**に分析することが適切か。

※ただし、地区名・学校名は非公表

① 対象の設定

アンケートは区市町村の協力を前提に、成果指標を広く把握するため、**対象をどのように設定して実施**することが適切か。

② 分析の方法

調査全体の集計結果を公表としつつ、**「東京モデル」の取組の実施校・非実施校別**に分析することが適切か。

観点	留意点
成果指標と調査設計の関係	(1) 生徒：満足度・選択肢は、一定期間の活動経験を前提とする指標 (2) 教員：従事時間・負担感は、通常期の活動実態で把握する必要
対象校の考え方 (条件付き抽出)	学校規模・地域特性・事業実施状況を踏まえて対象校を抽出 成果指標が比較可能となる条件をそろえることを優先
対象学年による 成果指標への影響	中学1年生：活動経験が浅く、成果指標が安定しにくい 中学2年生 ：活動経験が1年以上あり、今後も取組あり 中学3年生：引退・進路要因が成果指標に影響する可能性

➤ 区市町村へ、報告書(全体値)等のデータを情報提供する。

⇒ 部活動指導員、地域クラブ活動指導者やコーディネーターも対象にする必要があるのではないか。

「推進計画における成果指標の内容について」 -東京モデルの取組を着実に前進させていくために-

【論点Ⅰ】

【設計の妥当性】

- ① 単一の設問ではなく、同じ方向性を捉える複数の設問を設定した上で、主となる設問をKPI（代表値）として数値化するという設計が適切か。

【判断の示し方】

- ② KPIの数値を成果の達成の判断に直結させるのではなく、補完的な設問結果も踏まえて、成果の傾向や課題を整理する示し方が適切か。

【論点Ⅱ】

【対象の設定】

- ① アンケートは区市町村の協力を前提に、成果指標を広く把握するため、対象をどのように設定して実施することが適切か。

【分析の方法】

- ② 調査全体の集計結果を公表としつつ、「東京モデル」の取組の実施校・非実施校別に分析することが適切か。

【参考資料】

令和7年度「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答

【参考資料】「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答【生徒用】 ※令和7年度以前

1	在籍校の所在区市町村を選択してください。都立学校在籍生徒は「都立」を選択してください。
2	在籍校名を選択してください。
3	現在、参加している部活動を選択してください。部活動に参加していない場合は「参加していない」を選択してください。
3-2	3で参加していると回答した場合 あなたが参加しようと思った条件として、当てはまるものを全て選択してください。
4	現在、参加している地域クラブ活動を選択してください。地域クラブ活動に参加していない場合は「参加していない」を選択してください。
4-2	4で参加していると回答した場合 あなたが参加しようと思った条件として、当てはまるものを全て選択してください。
5	自分のやりたいスポーツや文化・芸術活動が学校や地域にありますか。
6	学校や地域のスポーツや文化・芸術に関わる環境(種類や指導者、活動場所など)に満足していますか。
6-2	6であまり満足していない・満足していない理由を記述してください。
7	部活動や地域クラブ活動の指導者は、どのような指導者がいいですか。当てはまるものを全て選択してください。
8	今後、生徒数が減るなどして、学校の中で部活動を継続していくことが難しくなっていくことが考えられます。国は中学校の部活動を地域に移行することを示していますが、このことを知っていますか。
9	もし、希望する部活動(例:サッカー、バドミントン、ダンス、eスポーツ、軽音楽など)が学校にない場合、あなたはどうしますか。当てはまるものを全て選択してください。
9-2	9で参加すると回答した場合 部活動や地域クラブ活動で、どのような種目や分野に参加したいですか。当てはまるものを全て選択してください。
10	土曜日、日曜日や祝日で、部活動や地域クラブ活動も休みの日に、個人で参加する多様な体験プログラムがあれば、どのような活動に参加したいですか。「参加したい」と思うプログラムを全て選択してください。
10-2	10で参加すると回答した場合 個人で参加する多様な体験プログラムで、どのような種目や分野に参加したいですか。 当てはまるものを全て選択してください。

【参考資料】 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答【教員用】 ※令和7年度以前

1	勤務校の所在区市町村を選択してください。都立学校に勤務している場合は「都立」を選択してください。
2	勤務校名を選択してください。
3	現在、担当している部活動を選択してください。部活動を担当していない場合は「担当していない」を選択してください。2つ以上の顧問をしている場合は、主に担当している部活動で回答してください。
3-2	3で担当しているを選択した場合、部活動の指導や運営に週にどのくらいの時間を費やしていますか。
4	部活動に関係している資格を取得していますか。 2つ以上の顧問をしている場合は、主に担当している部活動で回答してください。
5	担当している部活動の審判資格を取得していますか。 2つ以上の顧問をしている場合は、主に担当している部活動で回答してください。
6	担当している部活動に部活動指導員や外部指導者は配置されていますか。
7	6で配置されている場合、あなたが休日の部活動に携わっている日数は、月当たり何日ですか。
8	6で配置されている場合、部活動指導員や外部指導者が配置されたことにより、あなたが部活動に携わっている時間は、配置されていない場合に比べて、週当たり何時間減っていると思いますか。
7・8-2	7で2、3日・4日以上を選択した場合又は8で0時間・1分～4時間59分を選択した場合 部活動指導員や外部指導者が配置されていても部活動の指導に携わっている理由を選択してください。
9	大会やコンクール等の大会運営に携わっていますか。
9-2	9ではいと回答した場合 大会やコンクール等の大会運営に年間何日携わっていますか。
9-3	9ではいと回答した場合 大会やコンクール等の大会運営に平均1日何時間携わっていますか。
9-4	9ではいと回答した場合 大会やコンクール等の大会運営を負担に感じていますか。
10	中体連や中文連の大会には、部活動だけではなく、地域クラブや合同部活動で参加できることを、御存知ですか。
11	部活動指導員が単独で大会引率できることを御存じですか。
12	部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動がある場合、兼業・兼職の許可を受けて、地域クラブ活動の指導や運営に携わりたいですか。当てはまるものを1つ選択してください。